

FA-50

3t油圧ジャッキ ガレージローダウン 取扱説明書

生産物賠償責任(PL)保険付

この度は、3t油圧ジャッキ ガレージローダウン FA-50をお買い求めいただきましてありがとうございます。
この「取扱説明書」はFA-50を安全にご使用いただく為のガイドブックです。
弊社製3t油圧ジャッキを初めてお使いいただく方はもちろん、すでにご使用された経験をお持ちの方にも、知識や操作方法を再確認する上でお役に立つものと考えております。
この「取扱説明書」を最後までよくお読みになり、内容をご理解した上で正しくご使用くださいますようお願い致します。又、常にこの「取扱説明書」をお手元に置いて作業することをおすすめ致します。
※一部の車種でジャッキセット位置の形状や位置等により使用できない場合があります。詳しくは、カーディーラー又は販売店にご相談ください。
※記載されているイラストはイメージです。

もくじ

①安全に関するご注意	P.1
②ジャッキの使用条件	P.2
③使用用途	P.3
④各部の名称	P.3
⑤有効範囲	P.3
⑥使用前の準備	P.4
⑦フロント・リヤからのジャッキアップ手順	P.5～7
⑧お手入れ	P.8
⑨ジャッキオイルの補充及び点検方法	P.8
⑩エア抜きの方法	P.9
⑪グリスアップ方法	P.9
⑫故障かなと思った時	P.10
⑬製品仕様	P.10
⑭保証規定／保証書	P.11

① 安全に関するご注意 ※本製品を安全に正しくお使いいただく為に必ずお守りください。

本製品をご使用前に取扱説明書(本書)をよく読み、十分理解した上で使用してください。取扱説明書には重要事項の説明が記載されています。記載内容に従わずに使用した場合、重大な事故につながります。



重要

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容、及び物的(車両等)損害の発生が想定される内容を示しています。

- 本製品を用途以外の目的で使用しないでください。
- 本製品を、分解・改造しないでください。
- 本製品は自動車をジャッキアップ又はダウンする為だけに専用設計されており、車両をジャッキアップした状態で維持する目的で設計されていません。
- パワーユニット部の安全弁は出荷時に安全荷重に調整されている為、触らないでください。
- 本製品の最大耐荷重は3t(3000kg)です。耐荷重以上の荷重をかけると、本製品が荷重に耐えられず破損し、車両が落下する場合があります。
- 本製品を使用する前に、無負荷状態でジャッキアップ・ダウンテストを行ってください。もし不具合があれば、使用せずに、販売店又は弊社までご連絡ください。
- 電子制御エアサスペンション装着車は、ジャッキアップ前に車両の取扱説明書をご確認の上作業をしてください。車高がかわり思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 自動車をジャッキアップ又はダウンする際、車両の周囲3m以内に人(特に子供)や物、他の車両等がないことを確認してから作業を行ってください。
- 使用前又は使用中、本製品に異常が発生した場合(オイル漏れ、変形、動きが悪い等)は、ただちに使用を中止し、販売店又は弊社までご連絡ください。
- ジャッキアップする際は、水平で堅固な場所で行ってください。水平でない場所、接地面が軟弱な場所でジャッキアップすると、荷重により本製品が傾き、車両が落下する場合があります。
- ジャッキアップ中にジャッキが前進しない場合は、ただちに使用を中止し、地面やジャッキの車輪を確認してください。水平で堅固な場所でも、小石等によりジャッキの移動を妨げ、ジャッキに大きな負担がかかって破損し、車両が落下する場合があります。
- ジャッキアップする前にパーキングブレーキを確実にかけ、AT車なら「Pポジション」、MT車なら「1速又はRギヤ」にしてください。
- ジャッキアップする場合は安全の為、輪止め、ジャッキスタンド等を使用してください。

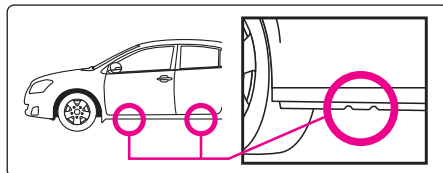
- ジャッキアップする際は、車載の取扱説明書でジャッキセット位置を確認してから作業をしてください。
- 車載の取扱説明書に記載されているジャッキセット位置でジャッキアップしても、車両によっては重量/バランスの関係で、ジャッキアップするにつれて斜めになる場合があります。
- 本製品はジャッキアップするにつれて前進する為、作業する高さ(ジャッキスタンドでの維持、タイヤ脱着可能な高さ)になるまで、ジャッキと車両の状態を確認しながらジャッキアップしてください。
- ジャッキアップの際は車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れてください。
- ジャッキアップした状態のまま自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。
- ジャッキセット位置の中心がサドルの中央にかかるようにご使用ください。
- ジャッキアップ中にリリースバルブを調整しないでください。
- 車両をジャッキアップ中に、その場から離れないでください。
- 作業中は適時、周囲に人や物等がないか確認してください。
- 本製品での作業中に、車両の下に頭や体を入れないでください。万が一、ジャッキセット位置からサドルがずれて落下した場合、車両や本製品の破損ばかりではなく、ケガや人命にかかわる重大な事故を引き起こす原因となります。
- フロント又はリヤからジャッキアップした後、ジャッキスタンドで車両を固定してから作業を行ってください。本製品だけで支えた状態での作業は、車両のバランスが非常に悪く落下する場合があります。
- 本製品を含む2台以上のジャッキの同時使用は非常に危険です。同時使用はしないでください。
- ジャッキアップ中にジャッキセット位置と本製品のサドルがずれないように注意してください。ずれたままジャッキアップを続けるとサドルがはずれ、車両や本製品の破損ばかりではなく、ケガや人命にかかわる重大な事故を引き起こす原因となります。
- ジャッキダウンする際は、車両が急激に下りないようにリリースバルブをゆっくりと回し、車両を下ろしてください。
- 一部の車種でジャッキセット位置の形状や位置等により使用できない場合があります。



重要

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的(車両等)損害の発生が想定される内容を示しています。

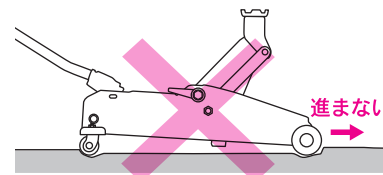
- 本製品は-20℃～60℃の範囲の温度環境で使用してください。
- 本製品を業務用で使用しないでください。
- ジャッキダウン中に、本製品の可動部分に手等がふれると、はさまれる危険性がある為、ふれないようにしてください。
- 本製品を持ち運ぶ際は、本体のすきま等で手や足ををはさまないように十分気をつけて取り扱ってください。
- 本製品を持ち運ぶ際に重いと感じた場合は、無理に一人で運ばないでください。
- 本製品のハンドルはジャッキアップ・ダウン時以外は、接触防止の為、ハンドルスリーブからはずしててください。
- 荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- 本製品の使用前又は使用後は、各部に問題がないか確認してください。
- ジャッキオイルは適時交換してください。



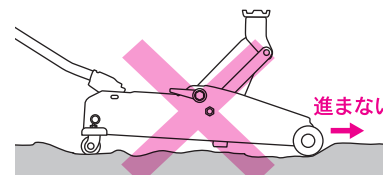
② ジャッキの使用条件

× 下記のような場合は使用できません

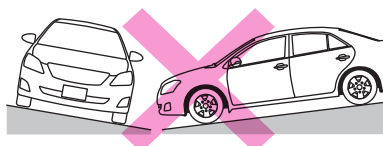
柔らかい地面はめり込んで進まない



凸凹な地面は前に進まない

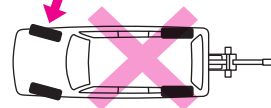


傾斜した場所

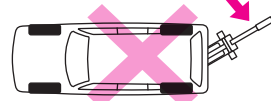


傾斜した場所や勾配のある道路では使用しないでください。

タイヤの向きがまっすぐになっていない

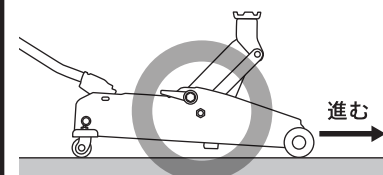


ジャッキの向きがまっすぐになっていない

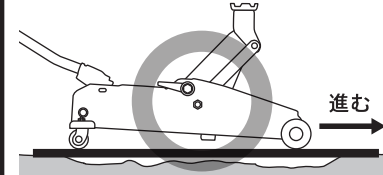


○ 下記のように対応して使用してください

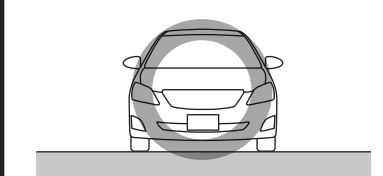
堅固な場所



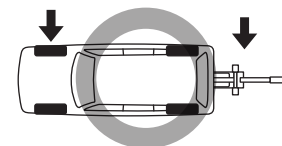
鋼板等の堅固な板を敷く



水平で堅固な場所



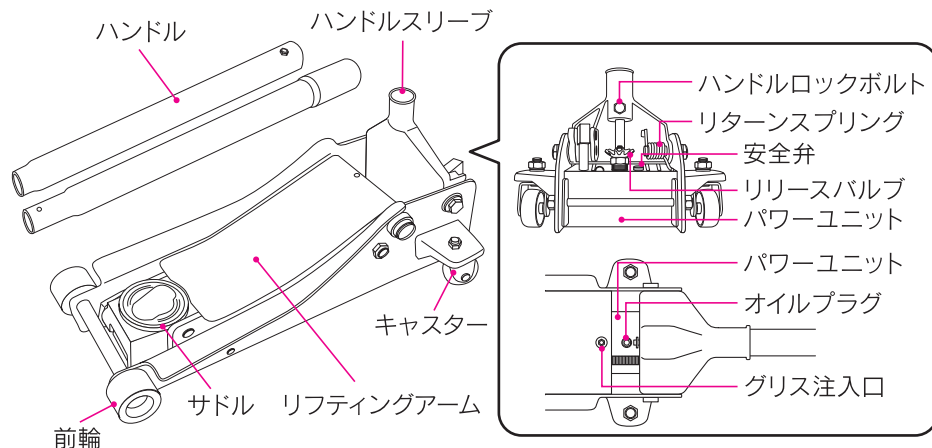
タイヤ、ジャッキの向きをまっすぐにする



③ 使用用途

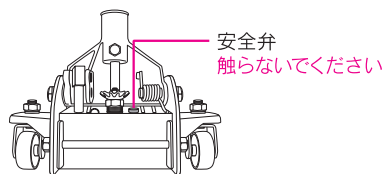
本製品は自動車のタイヤ交換や整備の際に自動車をジャッキスタンド等で維持させる為に、ジャッキアップ又は、ジャッキダウンさせる目的で使用するジャッキです。
本製品はジャッキアップ状態を維持したままでの作業等には使用できません。
※本製品を業務目的で使用しないでください。

④ 各部の名称

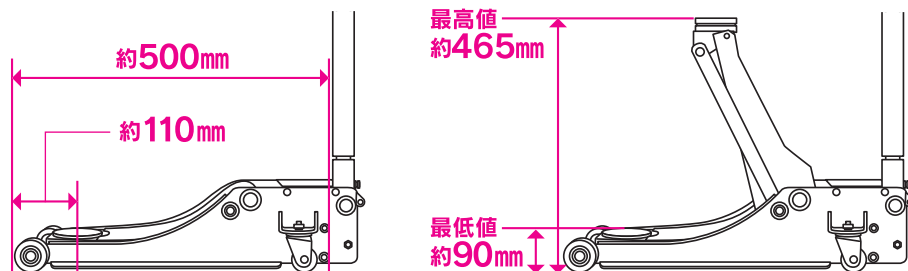


パワーユニットの安全弁について

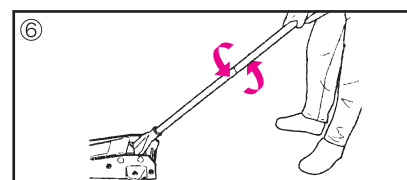
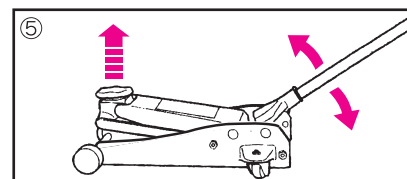
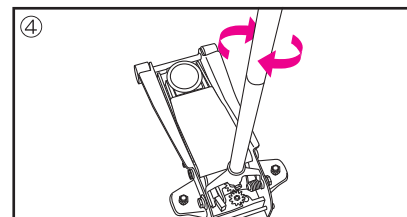
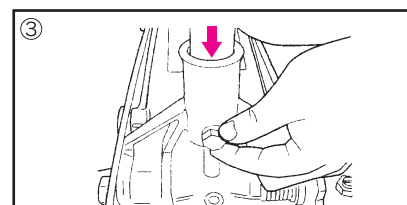
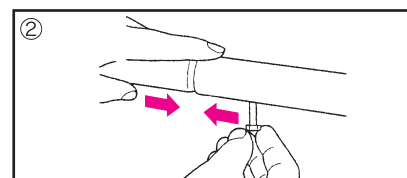
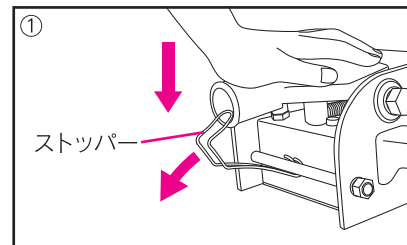
本製品には安全弁が付いており、出荷時に安全荷重に調整されている為、触らないでください。
(ジャッキに安全荷重以上の負荷がかかった場合、作動しないようになっています。)



⑤ 有効範囲

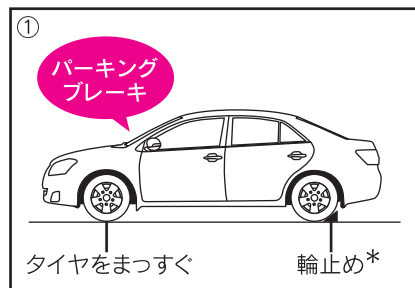


⑥ 使用前の準備



⑦ フロント・リヤからのジャッキアップ手順 ※説明はフロントジャッキアップの場合です。

■作業する前に準備する物:手袋、膝を保護する布等

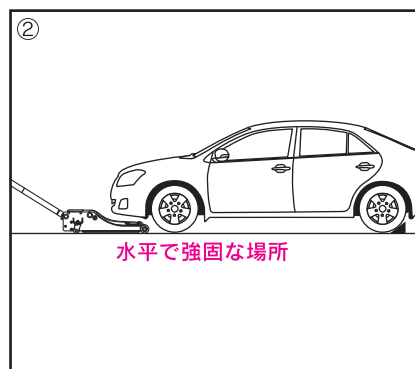


- ① パーキングブレーキを確実にかけ、下記「輪止めの位置」を参照しタイヤに輪止め(別売)をセットする。

*輪止めの位置

ジャッキアップ場所	輪止めの位置
フロント	後輪
リヤ	前輪

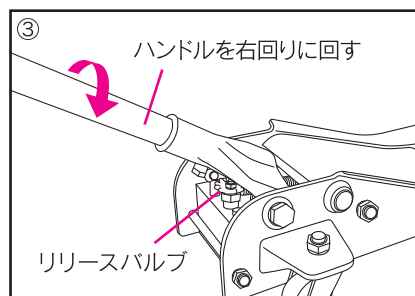
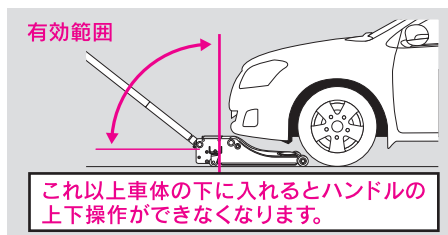
※左右輪を同時にジャッキアップする場合は、



- ② 水平で強い場所にジャッキを置き、サドルがジャッキセット位置*の真下にくるようにジャッキを移動する。

*ジャッキセット位置:車載の取扱説明書で確認してください。

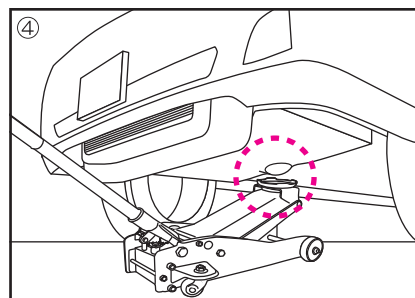
※P.3の「有効範囲」を参照してください。



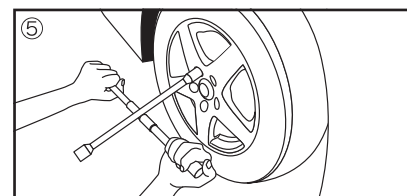
- ③ ハンドルを右回り(時計回り)に回してリリースバルブをしっかりと締める。

リリースバルブを締める
※締め付けが不十分な場合はジャッキアップできません。

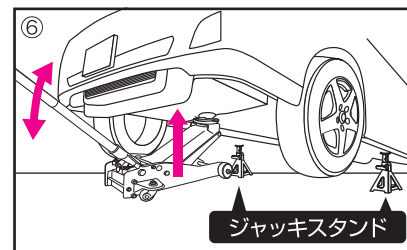
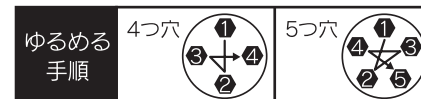
時計回り
しっかり
回す



- ④ ハンドルを上下に動かし、サドルをジャッキセット位置付近まで上昇させ一度停止し、ジャッキセット位置の中心がサドルの中央にかかることを確認する。



- ⑤ ジャッキアップ前にホイールナットを1/2回転ほどゆるめておく。

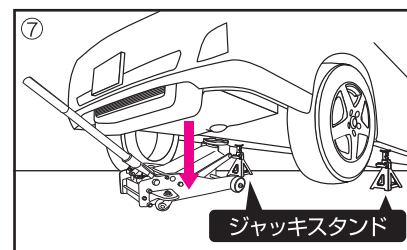


- ⑥ ハンドルを上下に動かしてサドルを上昇させ、ジャッキスタンドが車両の左右ジャッキセット位置に入るまでジャッキアップする。

※サドルが全く上がらない場合は、P.10の「故障かなと思った時の①」を参照してください。

※サドルが途中でしか上がらない場合は、P.10の「故障かなと思った時の②」を参照してください。

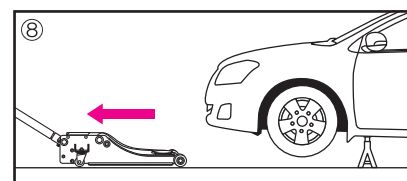
※サドルが自然に下がる場合は、P.10の「故障かなと思った時の③」を参照してください。



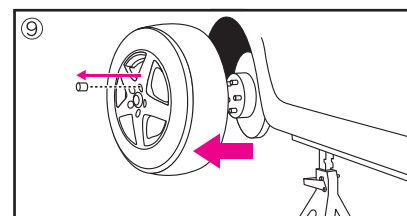
- ⑦ ジャッキスタンドを、車両のジャッキセット位置の真下になるよう合わせて置き、ジャッキスタンドが車両を維持するまでリリースバルブを左回り(反時計回り)にゆっくり回し、ジャッキダウンする。

リリースバルブをゆるめる

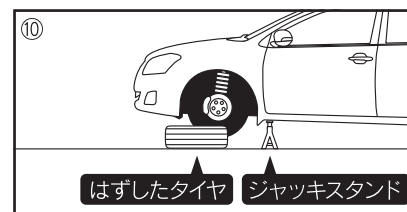
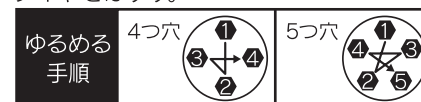
※リリースバルブをゆるめる際は、締めた状態から3回転以上回さないでください。故障の原因になります。



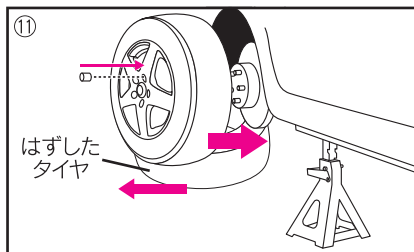
- ⑧ ジャッキスタンドが、車両を完全に維持しているのを確認し、ジャッキのサドルを下げて移動させる。



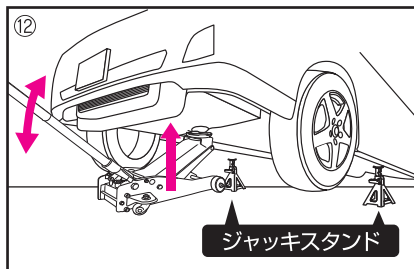
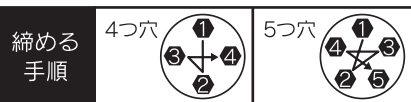
- ⑨ クロスレンチ等でホイールナットをはずし、タイヤをはずす。



- ⑩ 万が一の事を考慮し、はずしたタイヤを車体の下に敷く(意匠面を上にする)。

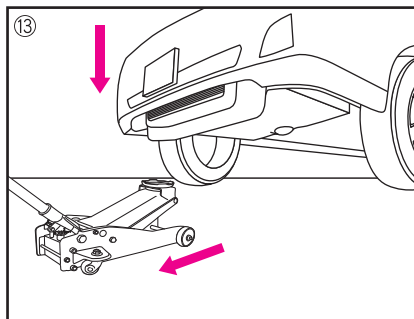


⑪交換用タイヤを取り付け、ホイールナットを手で回して取り付けた後、クロスレンチ等を用いて仮締めし、車体の下に敷いたタイヤを取り出す。



⑫作業後、再びジャッキをジャッキセット位置まで移動させ、リリースバルブを右回り(時計回り)に回してリリースバルブをしっかり締め、ジャッキスタンドが取りはずせる位置までジャッキアップする。

リリースバルブを締める
※締め付けが不十分な場合はジャッキアップできません。

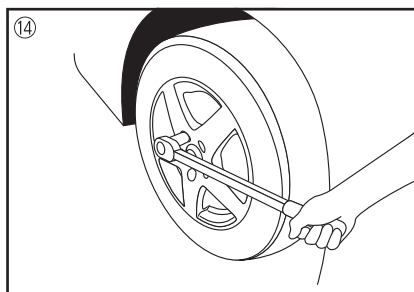


⑬車体の下に入れているジャッキスタンドをはずし、リリースバルブを左回り(反時計回り)にゆっくり回しジャッキダウンする。

リリースバルブをゆるめる
※リリースバルブをゆるめる際は、締めた状態から3回転以上回さないでください。故障の原因になります。

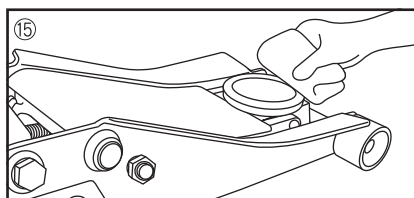
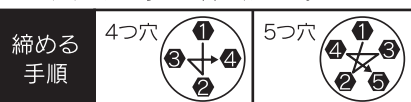


※サドルが途中までしか下がらない場合は、P.10の「故障かなと思った時」の④を参照してください。
※サドルが下がりきらない場合は、P.10の「故障かなと思った時」の⑤を参照してください。



⑭ジャッキを安全な所まで移動してから、トルクレンチを使用し、規定のトルク数値でホイールナットを本締めする。

※完了後、100km程、走行していただき、再度規定のトルク数値でホイールナットを締めてください。
※締め付トルクは、車の取扱説明書又はカーディーラー等でご確認ください。

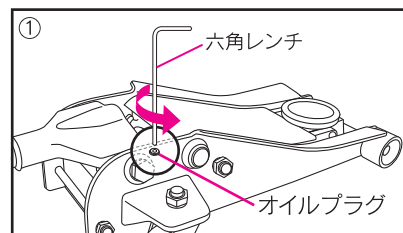


⑮作業が終了したらサドルやリフティングアーム、フレーム等に付着した泥、オイル、グリス、水滴等の汚れをきれいに拭き取る。

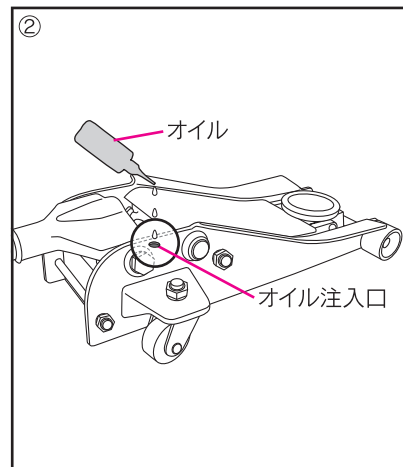
⑧ お手入れ

- ジャッキを使用しない時は、錆などによる作動不良防止の為、リフティングアーム及びハンドルスリーブを最低位置に下げておいてください。
- ジャッキは常にきれいにし、可動部に適時注油してください。
- オイルの量が減少した場合、適正量を補充してください。
- 保管する際は、錆や作動不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たる所及び湿気の多い所等には保管しないでください。
- 本製品を長時間使用しない場合は、リリースバルブ、オイルプラグ等がしっかり締まっているか確認してください。

⑨ ジャッキオイルの補充及び点検方法

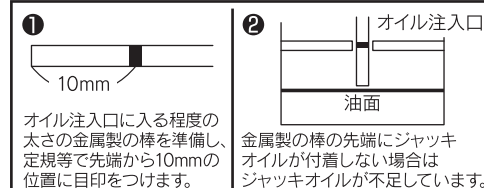


①リフティングアームを最低位置まで下げ、平らな場所でオイルプラグを六角レンチ*等で左回り(反時計回り)に回してはずす。
*六角 平径8mm



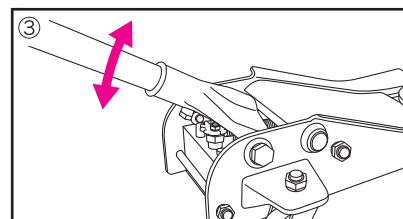
②オイル量を確認する。
オイル注入口から油面まで約10mm以上の空間があれば、ジャッキオイルをオイル注入口から少量ずつ注入する。
※オイル注入中にゴミが入らないように注意してください。
※入れ過ぎには注意してください。
※ジャッキオイルの適正量は、リフティングアームを最低位置まで下げた状態でオイル注入口から油面まで約10mmの空間を設けた位置です。(約250cc)

オイル量の確認方法



オイル注入口に入る程度の太さの金属製の棒を準備し、定規等で先端から10mmの位置に目印をつけます。

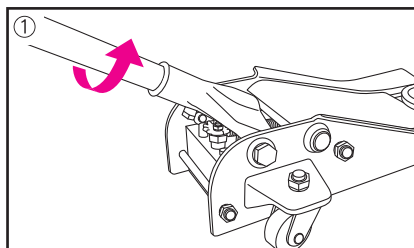
金属製の棒の先端にジャッキオイルが付着しない場合はジャッキオイルが不足しています。



③ハンドルをすばやく5～6回可動範囲いっぱいには上下させる。作業が終了したら、オイルプラグを取り付け、元の状態に戻す。

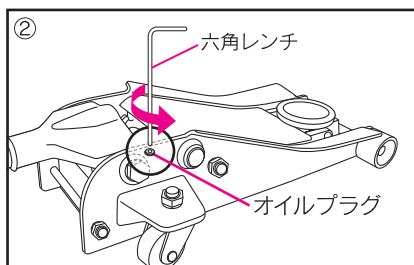
- ⚠注意
- 火気のある場所、又はその近くでオイル交換及び補充をしないでください。
 - ジャッキオイルは指定されたものを使用してください。エンジンオイルやその他のオイルは粘度等が違ふ為、作動不良の原因となるので使用しないでください。
ジャッキオイル:F-62ジャッキオイル又はISO VG32相当の一般作動油を使用してください。

⑩ エアー抜きの方法

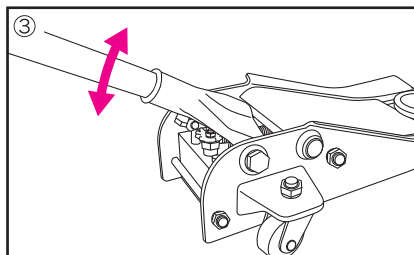


①リリースバルブをしっかり締まった状態から左回り(反時計回り)に1～2回転させ、ゆるめる。

リリースバルブをゆるめる
※リリースバルブをゆるめる際は、締めた状態から3回転以上回さないでください。故障の原因になります。

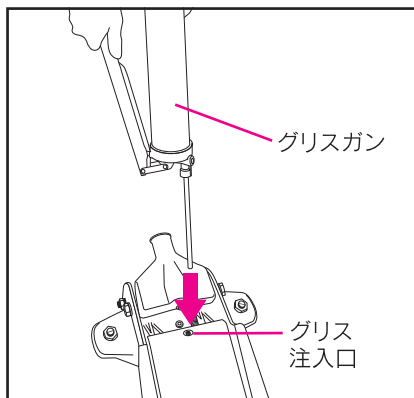


②オイルプラグを六角レンチ*等で左回り(反時計回り)に回してはまず。
*六角 平径8mm



③ハンドルをすばやく5～6回可動範囲いっぱいには上下させる。作業が終了したら、オイルプラグを取り付け、元の状態に戻す。

⑪ グリスアップ方法



グリスガンをグリス注入口に差し、適量を注入する。

※グリスは適時充填してください。

⑫ 故障かなと思った時

	症 状	原 因	対 処
①	全く上がらない	リリースバルブがしっかり締まっていますか。	リリースバルブをしっかり締めてください。
		エアーが混入していませんか。	エアー抜きをしてください。P.9参照
		ジャッキオイルが不足していませんか。	ジャッキオイルを適正量補充してください。P.8参照
②	途中でしか上がらない	ジャッキオイルが不足していませんか。	ジャッキオイルを適正量補充してください。P.8参照
		ジャッキオイルが多く入り過ぎていませんか。	余分なジャッキオイルを抜き、適正量にしてください。P.8参照
③	自然に下がる	リリースバルブがしっかり締まっていますか。	リリースバルブをしっかり締めてください。
④	途中でしか下がらない	パワーユニットに問題があります。	販売店又は弊社までご相談ください。
⑤	下がりきらない	可動部に注油されていますか。	適時注油してください。
		バネ部の性能が低下しています。	サドル部を踏んで下げてください。

※その他、原因や異常箇所が判らない場合は使用を中止して、販売店又は弊社までご相談ください。

※本製品は業務用として使用できません。

⑬ 製品仕様

最大耐荷重	3000kg(最大揚程質量) 29.4kN
最低/最高地上高	約90mm/約465mm
ストローク	約375mm
本体サイズ	約645(W)×160(H)×345(D)mm
重さ	約33.6kg
ハンドルサイズ	約1100mm
ハンドル取付後全長	約1590mm
サドルサイズ	約φ107×15(H)mm
作動油	油圧潤滑油(ISO VG32)
油量	約250cc
使用温度範囲	－20℃～60℃